第１回能代・山本地域医療構想調整会議　議事要旨

１　日　時　　令和５年６月２日（金）　午後６時から午後８時まで
２　場　所　　オンライン会議
３　出席委員　委員１８名中１７名出席（代理出席者含む）

氏　　名	役　　職　　等
楊　　国　　隆	能代市山本郡医師会長
工　藤　　茂　将	能代市山本郡医師会監事（有床診療所代表）
大　塚　博　徳	地域医療機能推進機構 秋田病院長
太 田 原　　康 成	能代厚生医療センター院長
加 藤　裕 治 郎	能代山本医師会病院長
伊　　藤　　剛	能代病院事務長　病院長代理
郡　司　啓　文	島田病院長
大　渕　宏　道	森岳温泉病院長
小 笠 原　　達 志	秋田県薬剤師会能代山本支部副支部長
安　田　純　子	秋田県看護協会能代山本地区理事
千　葉　　康　浩	全国健康保険協会秋田支部業務部長
岩　村　　庄　英	特別養護老人ホーム「もりたけ」施設長
斉　藤　　誠　宏	八峰町地域包括支援センター所長
堀　井　　智　昭	能代市市民福祉部健康づくり課長
佐 々 木 英 樹	藤里町町民課長
小　　松　　仁	三種町健康推進課長
石　上　義　久	八峰町福祉保健課長

４　議事等

（１）二次医療圏の見直しについて
　①次期医療計画の策定スケジュール等について
　②二次医療圏の設定について

【事務局】
（資料により説明）

【能代市山本郡医師医会長】
資料①３ページの中段に記載されている「病院の役割分担のイメージ（案）」について、地域事情によりＢやＣの病院が、主に急性期を担う医療機能と地域包括ケアシステムを

支える医療機能の両方に対応するといった場合は考えられるのか。完全に区分しなくても良いか。

【医務薬事課長】
　地域事情に応じ、急性期と包括ケアのどちらにも対応いただいても問題ない。

【能代市山本郡医師会長】
　大館に救命救急センターを作ることとしているが、三種町などは距離・時間的に、県央である秋田が近い。そういった場合は、症状によっては秋田を選択することも考えられるが、自由度は認められるのか。

【医務薬事課長】
　実情としてありあえるが、県が考えるのは県北・県央・県南という地域バランスを配慮して、地域救命救急センターを令和６年４月に大館市立総合病院に設置することとしている。基本的には圏域の中で対応いただきたいが、そういった役割分担については消防の搬送基準の見直しを兼ねて検討することや、地域医療構想調整会議の中で議題として取り上げて協議いただくこととなる。

【能代厚生医療センター院長】
　三医療圏の考え方を前提として地域の中で役割分担をしっかりしていくこととなるが、その議論の前に、現在の８医療圏において、しっかり役割分担を議論することが重要ではないか。

【能代山本医師会病院長】
　この地域の急性期については、能代厚生、ＪＣＨＯ、医師会病院の３病院が担っている。資料①３ページの中段に記載されている「病院の役割分担のイメージ（案）」のように、それぞれの役割について集約していくこととなると、先般、能代厚生でコロナのクラスターが発生し、救急患者の受入れを他の２病院が担ったことがあったが、それぞれが急性期も診られないと、そういった事象が発生した際に対応できないということを痛感したところ。多少は変化するだろうが、それぞれが急性期の役割も担えるような病院で包括ケアシステムを支える病院としての機能も持ち合わせるというのが現実的だと感じた。

【医務薬事課長】
　感染症については、５疾病６事業の検討の中でそれぞれ議論されるので、その内容を踏まえ進めていきたい。

【JCHO 秋田病院長】
　移行していくという部分について、回復期とか慢性期の定義は県としてどのように捉

えているのか。当院は１６３床あるが、地域包括ケア病床５０床のように名乗らなければ、そこは慢性期病床として認めないのか。もしくは他院から慢性的になった患者を受け入れて県に報告すれば、慢性期病床として扱ってもらえるのか。リスク管理として急性期も必要とした場合、病病連携を密にし、急性期を脱した患者を受け入れる後方支援もするといった対応でも可能なのか。

【医務薬事課長】
　地域医療構想調整会議の議題の中に、病床機能報告がある。年１回各病院から各病床種別の報告を貰い、その利用方法を踏まえ、地域の機能としてどうなのかという議論になるので、報告数値等を踏まえ議論させていただく。

【JCHO 秋田病院長】
　この病棟は地域包括ケア病床だと名乗らなくても、ある病棟を見た時に、在院日数や転院患者であるとか背景をみれば、ここは回復期として使っている病棟・病床であるというのはレセプト等で確認できると思う。そういった扱いが可能であれば、病病連携も進むと考える。

【医務薬事課長】
　具体的な答えは持ち合わせていないが、ご意見として承る。

【島田病院長】
　この４月から院長となった。よろしくお願いする。本院は精神科単科病院なので、地域包括ケアを支える病院として役割を担っていきたいと考えている。この５月から認知症専門病床を立ち上げたところで、うまく機能するよう努力している。本院の対応が県の医療構想にも貢献できるものと考えている。

【森岳温泉病院長】
　本院の立場としては地域包括を担う病院になる。昔よりスムーズな病病連携ができるようになってきていた。病院の役割分担のイメージにある現在の機能を変えるというのはこの能代・山本地域の現状には合致しないのではないか。さらに能代から大館に患者をというのは距離・時間的に現実的ではないのではないか。医療計画部会で決定したものをひっくり返したいということではないが、現状認識をしっかりしたうえで対応いただきたい。当院はリハビリに重きにおいた運営を進めており、大湯リハビリとの連携も視野に考える必要はあるが、地域の中では一定程度好循環な仕組みができてきているものと考えており、現在のシステムをうまく使いながらシフトしていく必要がある。

【県薬剤師会能代山本支部副支部長】
　ABCD 病院の分担イメージについて、広域化されると A～H となる。そういった状況に

おいて病院を集約するということではないということを改めて確認させていただきたい。

【医務薬事課長】
あくまでも病床削減をということではなく、今ある医療資源を活かしつつ、それぞれの役割分担を担い、協議を重ねながら収斂されていくとになると考えている。

【県看護協会能代・山本地区理事】
看護師の立場からすると、地域の高齢化が進んでおり自分で通院できない高齢者も多いので、二次医療圏が３つと広域になった場合、高齢者の交通事情が心配である。また、青森県から患者も来ているので、医療圏で区切ることについては違和感がある。

【医務薬事課長】
患者の受療行動を妨げるものではないが、青森県から秋田県に来る場合、大館市か弘前市に通院する場合があることは承知している。この計画は秋田県内でどのような医療圏を形作るかという議論で進めてきている。さらに人口減少が進んでいけば隣県との医療圏の考え方について議論する必要がでてくるかもしれないが、現状として３医療圏で対応していくとした方針で進めさせていただきたい。

【全国健康保険協会秋田県支部業務部長】
これから３医療圏になっていくという時に、交通弱者の問題や地域ごとの課題も出てくると思うので、丁寧な対応、住民への説明をお願いしたい。

【医務薬事課長】
広域化に関しては、へき地医療の対応として医療のデジタル化や地域道路網などの地域交通の整備も課題だと認識している。

【特別養護老人ホーム「もりたけ」施設長】
当施設は三種町にあり秋田市の方が近い。施設を運営している者として、入居者が亡くなった場合、医師による診断を開業医にお願いしている場合、夜に亡くなってしまうと朝まで待ってほしいというケースもあったりする。病院との日常的な連携なり地域のそういった病院が無い場合どこにお願いすれば良いのか、開業医の先生も含めて関係づくりをどう進めるのか、また、広域になった場合の通院時間の延伸も見込まれるので、利用しやすい形を維持していただきながら役割分担を再構築していただきたい。

【医務薬事課長】
秋田県利用の目指す姿にもあるとおり、そういった看取り等については包括ケアシステムによる対応だと考える

【八峰町地域包括支援センター所長】

当センターでは多職種連携により生活支援、予防、健康づくりと地域住民を支える役割を担っている。広域化することに伴って、医療関係者との連携のあり方が現状からどのように変わるのか不安な部分はある。二次医療圏の設定（意見のまとめ）に記載のある、設定に当たり考慮した点、期待される効果について、今後地域住民へも分かりやすく、納得のいく形で３医療圏案が受け入れられることを願っている。

【能代市健康づくり課長】

市民としては、病院が無くなるのではないか、かかりつけ医は大丈夫かという不安を抱えているのではないか考えるが、現状として直接問い合わせは来ていない。来週から市議会が始まるので、議員を通じ意見が寄せられる可能性はある。まずは市民のみなさんに考え方を正確に理解していただくためにも、丁寧な説明をお願いしたい。

【藤里町町民課長】

医療圏案については８医療圏から５医療圏の案もあったかと思う。５医療圏案では能代・山本医療圏はこのまま残る案であったので、特に意見等は無かったが、３医療圏案について、一部議員から口頭で確認があった。県北を１医療圏にということだが、当町は非常に小さい町なので、５医療圏案であればよかったが、当町も議会が控えているほか、医療機関を利用する町民への説明も必要だと思うので、３医療圏とした経緯について、改めて確認させていただきたい。

【医務薬事課長】

短期的には令和６年度から何か急に変わるといったものではない。計画期間である６年間や次期計画を考えた場合に、今から将来の人口動態や患者動向を踏まえたうえで、医療機関の役割分担や連携づくりを議論していく必要があるという中長期的な視点での医療圏案を提案させていただいたところである。仮に５医療圏とした場合に、次の医療計画を策定する段階で、さらに見直しが必要となることが想定され、そのたびに調整会議の中でも役割を見直しすることとなる。こういった状況もあり中長期的な視点にたって広域的な役割分担や連携を議論していくことが有効ではないかという考え方のもと３医療圏を提案させていただいた。５医療圏は、国の見直し基準をクリアしたもののみのその他案として提案していたものでありご承知いただきたい。

【三種町健康推進課長】

マスコミ報道を住民目線で見た場合、病院が遠くなるといった不安も持つ住民が多くなるなとの印象はあった。今後説明等丁寧にしていただくとは思うが、身近な市町村として町の広報等でもお手伝いできると思うので、その際は協力していきたい。

【医務薬事課長】

県民への周知は課題となっているので、ぜひ協力いただきたい。

【八峰町福祉保健課長】
　医療資源を効率的に残していく体制づくりは必要と考える。地域住民としては医療圏が少なくなるということが、病院が足りなくなっていくといった不安に駆られる状況になると思う。圏域内の拠点病院を直ちに集約や削減するといったことではないことについては、住民理解を深めるためにも町広報紙等においても協力していきたいので、様々な情報提供・共有をお願いしたい。

【能代市山本郡医師会監事（有床診療所代表）】
　先日の報道で初めて医療圏の広域化について知ったところ。見直しは仕方が無いとは思うが、今回の会議に参加しているので具体的な状況等については承知できるが、利用する患者に対し何が変わるのか説明するのは難しい。

【医務薬事課長】
　今の人口や患者数が維持できるのであれば、今の体制のままで良いこととなる。人口減少や高齢化、医師等の医療従事者も減っていく中で、どう医療機能を維持できるのかという観点で考える必要がある。それをどう実現していくのかについては、地域ごとの医療資源を有効に活用するために、役割分担と連携の協議を踏まえ必要とされる医療ニーズにフィットさせたいと考えている。現在の１医療圏の中で入院に関する機能を提供できない医療圏もでてくることから、広域化することのメリットも生かしながら医療提供体制を構築できないか見直しを実施したところである。

【能代市山本郡医師会監事（有床診療所代表）】
　今は医療圏が８つあるが、患者からすればフリーアクセスで受療制限が無い。医療圏の見直しに反対ということではないが、３つになったからといって何が変わるのかが見えてこない。

【医務薬事課長】
　患者の受療行動を妨げるものではないが、圏域の中でしっかり救急やがん、周産期などの拠点を整備しながら、限られた資源を活用していくといったエリアとして３医療圏を設定したところである。

【地域医療構想アドバイザー（県医師会島田常任理事）】
　医療圏の見直しについて、各郡市医師会長と県医師会役員と意見交換会を行ったが、その中での意見として、身近な病院が直ちに無くなるものではないことを住民に丁寧に説明する必要があることや医療機能が県央部に集中している状況を鑑み、県北と県南の医療圏において人材育成を含めて医療機能を高める必要があることなどの意見があった。医療圏の見直しについては、受療行動を制限するわけでないため、これまでどおり医療圏を越えて受診しても構わないが、より広域での役割分担や連携が人口減少下においては重要である。これらの点を十分対応いただければ問題ないと考えている。

【医務薬事課長】
　直ちに医療機関の統廃合や病床削減を要請するものでないこと、秋田県医療の目指す姿についても、県民向け説明かシンポジウムを通じて周知していきたい。地域の医療資源が限られている状況において、より広域的な枠組みの中で、これまで各地域で整備してきた医療提供体制を活用しながら、不足する医療機能を補うとともに、救急やがんなど専門的な治療の拠点を整備して地域の医療機能底上げを図っていく。広域化の中で医療機関の役割分担と連携を通じ、症例が集約されることによって、若手医師が地域でキャリアアップできる体制を構築し、病院における専門性や魅力の向上に努め、定着につなげていきたい。

（２）令和５年度の地域医療構想関係スケジュール等について
【事務局】
（資料により説明）

【JCHO 秋田病院長】
　医療資源は分かりやすく言えば医師だと思う。少ない医師をどのように分配していくかということを考えてのことだと思う。県は確保計画を進めているが、医者の配置を動かせないと思う。大学医局等としっかり協議しながら、医師の配置を前提に考えているのか。

【医務薬事課長】
　医師確保に関しては、地域医療対策協議会において医師の確保や今回の機能強化やキャリアアップなども含め協議することとなる。この協議会の委員には秋田大学、岩手医科大学、弘前大学も入っていただくこととしており、全体の医師確保についてどう進めるか協議することとなる。

【JCHO 秋田病院長】
　地域の医療と病院を守るといった立場で院長としてやっているが、医師の数を考えた時に、身の丈にあった病院としての機能を考えているつもりである。医師が少ない中で、地域医療にどのように貢献するかを考えているが、急性期が難しくなり回復期や慢性期を病院として考えていく際に、病床削減や統合などについて、県として強制的な指導はあり得るのか。

【医務薬事課長】
　医療計画を達成するための制度として知事が勧告するといったことはあるが、具体的に、そういった機能について直接的に勧告することはこれまでもなかった。地域や医療計画を策定する段階で具体的に見ていく形になるので、強制力を使うということは実質的に検討していない。

【JCHO 秋田病院長】
　過去に国が病院名を公表した経緯があった。身の丈にあった地域医療にどう病院として貢献していくか考えているため、病院の考え方については県と風通しの良い関係で進めていければと考えている。

【医務薬事課長】
　国をフォローするわけではないが、病院の廃止ではなく医療機能や役割を考え直す必要があるといった解釈であったと承知している。地域医療構想調整会議や医療計画を作成する段階で、こういった意見もあったということも踏まえて検討していきたい。

【地域医療構想アドバイザー（県医師会島田常任理事）】
　これまで８構想区域で実施してきたものを３つの合同会議で実施するとなれば人数が３倍になるということか。

【医務薬事課長】
　現段階では合同で実施することを想定しているが、人数も膨大になるので、どう調整するかは検討しているところ。まずは３圏域を対象として開催としたいと考えているが、幅広となるので、医療関係者だけで構成する専門部会も開催したいと考えている。

【地域医療構想アドバイザー（県医師会島田常任理事）】
　人数が多くなりすぎると、今回のように意見を聞くというのが難しくなると思うので、しっかり対応いただきたい。

【医務薬事課長】
　今年度は開催回数や協議内容等多くなっているので、ご協力お願いする。

（３）その他
【能代市山本郡医師会長】
　今年度の調整会議の開催方法は Web になるのか。

【医務薬事課長】
　Web 開催を予定している。

【地域医療構想アドバイザー（県医師会島田常任理事）】
　大きなテーマは二次医療圏の見直しであったが、この場で出た意見をしっかり受け止めていただくとともに、この先に実施する審議会等の進み具合も注視しながら、会議を進めていただきたい。

終了